

千葉市

障害者計画・障害福祉計画策定に係る 実態調査報告書

— 障害者生活実態・意向調査 —

平成 22 年 3 月



千葉市

目 次

第1章 調査の概要	1
1 調査の目的と方法	1
2 調査結果の概要	5
第2章 アンケート調査の結果	17
I 在宅の方（18歳以上）を対象とした調査	17
1 ご本人について	17
2 ご家族や介助者について	23
3 日常生活について	27
4 生活環境について	37
5 日中活動・就労について	47
6 将来について	56
7 サービスの利用について	60
8 収入や利用者負担について	75
9 市の障害者施策について	77
10 自由意見	78
II 施設に入所している方を対象とした調査	87
1 ご本人について	87
2 施設への入所について	92
3 施設での生活について	98
4 将来について	111
5 障害者施策について	120
6 自由意見	121

Ⅲ	18歳未満の方と保護者の方を対象とした調査	127
1	ご本人について	127
2	ご家族や介助者について	133
3	日常生活について	136
4	生活環境について	144
5	療育・保育について	153
6	学校・教育について	160
7	将来について	170
8	サービスの利用について	173
9	市の障害者施策について	184
10	自由意見	185
Ⅳ	発達障害の方とご家族の方を対象とした調査	193
1	ご本人とご家族について	193
2	日常生活について	198
3	療育について	204
4	学校・教育について	207
5	日中活動・就労について	210
6	将来について	211
7	サービスの利用について	214
8	市の障害者施策について	219
9	自由意見	220

第3章 障害者団体ヒアリング調査の結果 225

- 1 ヒアリング調査結果の概要..... 225
- 2 ヒアリング調査結果の詳細..... 230

資料編

- 千葉市障害者生活実態・意向調査調査票（在宅の方）
- 千葉市障害者生活実態・意向調査調査票（施設に入所している方）
- 千葉市障害者生活実態・意向調査調査票（18歳未満の方と保護者の方）
- 千葉市障害者生活実態・意向調査調査票（発達障害の方とご家族の方）
- 千葉市障害者生活実態・意向調査調査票（障害者団体ヒアリング事前調査）

第 1 章

調 査 の 概 要

1 調査の目的と方法

(1) 調査の目的

福祉・保健・医療・雇用・教育・生活環境など、幅広い分野を対象とした障害者施策の総合的推進と、障害福祉サービス等の必要見込量とその確保のための方策を策定するためには、障害者等の生活実態と意向を明らかにするための基礎調査が不可欠です。

この調査は、障害者基本法第9条第3項に規定する障害者計画及び障害者自立支援法第88条に規定する障害福祉計画の次期計画の策定に係る必要なデータを収集し、障害者施策の一層の推進を図ることを目的として実施しました。

(2) アンケート調査の実施方法

①調査の対象

千葉市に住所のある方で、身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方と、自立支援医療（精神通院医療）を利用している方、発達障害の方の中から対象者を選定しました。

対 象 者		母 数	対象者数	対象者の選定方法
Ⅰ 在宅の方 (2,500名)	身体障害	26,723	1,500	身体障害者手帳をお持ちの18歳以上の方から抽出
	知的障害	2,992	500	療育手帳をお持ちの18歳以上の方から抽出
	精神障害	11,350	500	精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方と、自立支援医療（精神通院医療）を利用している方から抽出
Ⅱ 施設に入所 している方 (796名)	身体障害	796	796	身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳をお持ちで、千葉市から障害者施設に入所している方（全数）
	知的障害			
	精神障害			
Ⅲ 18歳未満の方 と保護者の方 (1,000名)	身体障害	1,130	500	身体障害者手帳をお持ちの18歳未満の方から抽出
	知的障害	1,422	500	療育手帳をお持ちの18歳未満の方から抽出
Ⅳ 発達障害の方と ご家族の方（45名）		（注1）	45	千葉市自閉症協会の高機能部に所属している方（全数）（注2）

※ 母数は、在宅の方と18歳未満の方は2009年3月末時点、施設に入所している方は2009年10月末時点の人数です。

（注1） 発達障害は手帳制度がないため、母数の把握は困難であることから、記載していません。

（注2） 今回の調査では、自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害や注意欠陥多動性障害等のうち、高機能自閉症の方を対象に調査しています。対象者数は、2009年10月時点の人数です。

②調査の方法

在宅の方（18 歳以上）、18 歳未満の方と保護者の方を対象とした調査では、対象の方に郵送で調査票を配布し、無記名で郵送回収しました。

施設に入所している方、発達障害の方とそのご家族の方を対象とした調査では、対象の方が入所している施設、登録している団体を通じて調査票を配布し、無記名で郵送回収しました。

③調査期間

平成 22 年 1 月 8 日～1 月 25 日の期間に実施しました。

④配布・回収状況

調査票の種類	配布数	回収数	白紙等	有効回収数	有効回収率
I 在宅の方 (18 歳以上)	2,500	1,374	2	1,372	54.9%
II 施設に入所 している方	796	570	2	568	71.4%
III 18 歳未満の方 と保護者の方	1,000	524	0	524	52.4%
IV 発達障害の方 とご家族の方	45	34	0	34	75.6%

（３）ヒアリング調査の実施方法

①調査の対象

千葉市内の障害者団体 14 団体を対象としました。

団体の種類	団 体 名
当事者団体	①千葉市視覚障害者協会 ④千葉市身体障害者福祉会 ②千葉市聴覚障害者協会 ⑤千葉市オストミー協会 ③千葉市中途失聴・難聴者協会 ⑥千葉市腎臓病患者友の会
障害児者の 親の会	①千葉市肢体不自由児者父母の会 ④千葉市手をつなぐ育成会 ②千葉市ことばを育てる会 ⑤千葉市自閉症協会 ③千葉市重症心身障害児（者）を守る会
家族会・事業者 団体連絡会	①特定非営利活動法人 千家連 ②千葉市精神障害者共同作業所等連絡会 ③千葉市心身障がい者ワークホーム等連絡会

②調査の方法

対象団体に事前に調査票を配布し、当日代表の方に会場に来ていただいて、調査票の記入に基づいてお話を伺う形で実施しました。

③調査期間

平成 22 年 2 月 3 日～2 月 12 日の期間に実施しました。

調 査 日	団 体 名
2 月 3 日	・ 千葉市自閉症協会
2 月 4 日	・ 千葉市腎臓病患者友の会 ・ 千葉市中心身障がい者ワークホーム等連絡会 ・ 千葉市オストミー協会 ・ 千葉市身体障害者福祉会
2 月 5 日	・ 千葉市聴覚障害者協会 ・ 千葉市視覚障害者協会 ・ 千葉市重症心身障害児（者）を守る会 ・ 千葉市手をつなぐ育成会
2 月 8 日	・ 千葉市中途失聴・難聴者協会 ・ 千葉市ことばを育てる会 ・ 千葉市肢体不自由児者父母の会 ・ 千葉市精神障害者共同作業所等連絡会
2 月 12 日	・ 特定非営利活動法人 千家連

◆ 調査結果の利用にあたって

- ① 表では、特別の表記がない限り、上段が実数、下段が％（小数点以下第 1 位まで）を表示しています。
- ② 集計した数値（％）は小数点第 2 位を四捨五入し、小数点第 1 位まで表示しています。このため、質問に対する回答の選択肢が一つだけの場合、選択肢の数値（％）を全て合計しても、100.0％にならない場合があります。また説明文の中で複数の選択肢を合わせた割合を記載している場合、実数から再計算した上で四捨五入しているため、各選択肢の割合をそのまま合計した値と若干異なっている場合があります。
- ③ 回答者数を分母として割合（％）を計算しているため、複数回答の場合には、各選択肢の割合を合計すると 100％を越えます。
- ④ 調査結果を表や帯グラフで表示している場合、掲載の都合で無回答など一部の結果を省略している場合があります。このため、各項目の該当人数の合計が全体の人数よりも少ないことがあります。また、一部の設問では回答のなかった項目を省略しているため、調査票に記載された選択肢が表やグラフにはないことがあります。
- ⑤ 障害種別ごとの集計結果については、二つ以上障害のある方は、それぞれの集計結果に重複して入っています。

2 調査結果の概要

1 在宅の方（18 歳以上）を対象とした調査

①ご本人について

◆ 年齢 ～ 身体障害のある方では高齢者、知的障害のある方では若年者が多い
身体障害のある方は 7 割弱が高齢者であり、平均年齢は 67.1 歳となっています。知的障害のある方は 7 割弱が 40 歳未満であり、平均年齢は 34.6 歳となっています。精神障害のある方は 30 代、40 代が多く、平均年齢は 46.9 歳となっています。

②ご家族や介助者について

◆ 介助者が困っていること ～ 「介助者自身の健康」が最も多い
知的障害では「緊急時の対応に不安」、精神障害では「精神的な負担」が多い
「介助者自身の健康に不安がある」が 42.2%と最も多くなっています。知的障害のある方では、「緊急時の対応に不安がある」、精神障害のある方では、「精神的な負担が大きい」が多くなっています。

③日常生活について

◆ 日常生活で困っていること ～ 「将来の生活に不安」が最も多い
身体障害では「健康状態に不安」が多い
「将来の生活に不安を感じている」が 50.3%と最も多くなっています。身体障害のある方では、「健康状態に不安がある」が多くなっています。

◆ 希望する相談制度 ～ 「専門性の高い相談」、「緊急時の相談」が多い
「専門性の高い職員による相談」が 28.2%、「休日や夜間など緊急時の相談」が 25.0%となっています。

④生活環境について

◆ 住まいについて困っていること ～ 「階段の昇り降り」が最も多い
精神障害では「建物の老朽化」、「家賃など住宅費の負担」が多い
「階段の昇り降り」が 22.4%と最も多くなっています。精神障害のある方では、「建物の老朽化」、「家賃など住宅費の負担」が多くなっています。

◆ 外出するとき困っていること
～ 「建物の階段・段差」、「歩道・通路の段差」が多い
精神障害では「周囲の目」も
「建物の階段・段差」が 23.6%、「歩道・通路の段差」が 22.4%となっています。精神障害のある方では、「周囲の目が気になる」が多くなっています。

◆災害時不安に思うこと ～ 「薬や医療的ケアの確保」が最も多い

知的障害では「ひとりでは避難できない」が多い

「薬や医療的なケアが確保できるか不安」が51.3%と、最も多くなっています。知的障害のある方では、「ひとりでは避難できない」が多くなっています。

⑤日中活動・就労について

◆日中の過ごし方 ～ 就労している方は約4割、うち一般就労は約3割

65歳未満の方では、就労している方（福祉的就労も含む）は約4割となっています。一般就労している方は全体の約3割で、「正職員として働いている」が12.8%、「パート・アルバイトなどで働いている」が15.1%などとなっています。

◆仕事をする上で困っていること ～ 「給与・工賃が少ない」が最も多い

精神障害では「精神的な負担」が多い

「給与・工賃などの収入が少ない」が36.0%と最も多くなっています。精神障害のある方では、「精神的な負担が大きい」が多くなっています。

◆一般就労のために必要なこと ～ 「障害の特性に合った職業・雇用」が最も多い

知的障害では「総合的な相談支援」、精神障害では「柔軟な勤務体制」も

「障害の特性に合った職業・雇用の拡大」が48.3%と最も多くなっています。知的障害のある方では、「仕事探しから就労までの総合的な相談支援」、精神障害のある方では、「障害や病気の状態に応じた柔軟な勤務体制」も多くなっています。

⑥将来について

◆将来の暮らし方の希望 ～ 「自宅で家族と暮らしたい」が最も多い

知的障害では「グループホーム」も

「自宅で家族と暮らしたい」が55.2%と最も多くなっています。知的障害のある方では、「グループホームなどに入居したい」もやや多くなっています。

◆地域生活のために必要なこと

～ 「経済的負担の軽減」、「地域の障害理解」、「医療体制の充実」が多い

「経済的負担の軽減」が51.5%、「地域の人たちの障害に対する理解」が50.4%、「医療体制の充実」が48.7%となっています。

⑦サービスの利用について

◆訪問系サービスの利用意向 ～ 「居宅介護（ホームヘルプ）」が最も多い

知的障害では「行動援護」が多い

「居宅介護（ホームヘルプ）」が36.2%、「行動援護」が18.3%、「重度障害者等包括支援」が17.5%、「重度訪問介護」が16.8%となっています。知的障害のある方では、「行動援護」が多くなっています。

◆日中活動系サービスの利用意向 ～ 「短期入所（ショートステイ）」が最も多い
精神障害では「就労移行支援」が多い

「短期入所（ショートステイ）」が 27.5%、「生活介護」、「療養介護」がそれぞれ 21.3%、「自立訓練（機能訓練・生活訓練）」が 18.3%となっています。精神障害のある方では、「就労移行支援」が多くなっています。

◆居住系サービスの利用意向 ～ 「施設入所支援」、「グループホーム」が多い
いずれのサービスも知的障害で多い

「施設入所支援」が 18.0%、「共同生活援助（グループホーム）」が 17.1%、「共同生活介護（ケアホーム）」が 13.3%となっています。いずれのサービスも、知的障害のある方で多くなっています。

◆地域生活支援事業の利用意向 ～ 「相談支援事業」、「生活サポート事業」が多い
「相談支援事業」が 31.8%、「生活サポート事業」が 27.6%となっています。

◆サービスを利用する上で困っていること

～ 「サービスに関する情報が少ない」、「手続きが大変」が多い
居住系サービスでは、「将来入居・入所できるか不安」が多い

「サービスに関する情報が少ない」、「サービス利用の手続きが大変」という回答が多くなっています。居住系サービスでは「将来必要になったときすぐに入居・入所できるか不安」という回答が多くなっています。

◆福祉タクシー利用券・自動車燃料費助成の利用目的

～ 「医療機関への通院」が最も多い・知的障害では「福祉施設への通所」も
「医療機関への通院」が 82.4%と最も多くなっています。知的障害のある方では、「福祉施設への通所」も多くなっています。

⑧収入や利用者負担について

◆利用者負担の負担感 ～ 負担を感じている方が約 7 割

利用者負担を支払っている方では、「非常に負担に感じる」が 26.6%、「やや負担に感じる」が 42.9%、「あまり負担に感じない」が 30.5%となっています。

⑨自由意見 ～ 「サービスの拡充」、「福祉情報の提供」、「医療費助成の充実」、
「親亡き後への不安」、「経済的支援」など

「福祉サービス」に関する意見が 47.8%と最も多くなっています。意見の内容では、居宅サービス、日中活動系サービス、短期入所、移動支援などのサービスの拡充に関する意見や、福祉情報に関する意見、医療費助成の所得制限・窓口での支払免除に関する意見、親亡き後への保護者の不安に関する意見、経済的支援に関する意見などが多くなっています。

2 施設に入所している方を対象とした調査

①ご本人について

◆ 年齢 ～ 30代が多い

「30～39歳」が37.0%と最も多くなっています。平均年齢は、身体障害のある方で45.2歳、知的障害のある方で40.7歳となっています。

②施設への入所について

◆ 施設の種類 ～ 「(旧)知的障害者更生施設」、「(旧)身体障害者療護施設」が多い

「(旧)知的障害者更生施設」が48.6%、「(旧)身体障害者療護施設」が21.2%となっています。

◆ 施設のある地域 ～ 「千葉市内」、「千葉県内」がそれぞれ半数弱

「千葉市内」が48.4%、「千葉県内（千葉市以外）」が45.4%となっています。

◆ 施設に入所している期間 ～ 5～15年未満が多い

「10～15年未満」が26.5%、「5～10年未満」が26.1%となっています。

◆ 施設に入所した理由 ～ 「家族による介助が難しくなった」が最も多い

身体障害では「常時介助が必要」が多い

「家族による介助が難しくなったため」が55.4%と最も多くなっています。身体障害のある方では、「常時介助が必要なため」が多くなっています。

③施設での生活について

◆ 日中の過ごし方 ～ 「入所施設で作業や訓練をしている」が多い

身体障害では、「入所施設で看護や介護を受けている」が多い

「入所している施設で作業や訓練をしている」が59.3%と最も多くなっています。身体障害のある方では、「入所している施設で看護や介護を受けて過ごしている」が多くなっています。

◆ 自宅に帰る頻度 ～ 「10回以上」が最も多いが、「1年間帰っていない」も

「10回以上」が38.6%と最も多くなっていますが、「この1年間は帰っていない」も19.5%となっています。

◆ 外出するとき困っていること ～ 「外出の機会が少ない」が最も多い

身体障害では、「トイレの利用」、「歩道・通路の段差」も

「外出の機会が少ない」が35.8%と最も多くなっています。身体障害のある方では、「トイレの利用」、「歩道・通路の段差」も多くなっています。

◆ 日常生活で困っていること

～ 「身の回りのことが十分できない」、「外出の機会が少ない」が多い
「自分では身の回りのことが十分できない」が 53.5%、「外出の機会が少ない」が 31.9%となっています。

◆ 施設に希望すること ～ 「外出機会の増加」、「余暇活動の充実」が多い

身体障害では「看護や介護の質の向上」も
「外出機会の増加」が 38.4%、「余暇活動の充実」が 31.6%となっています。身体障害のある方では、「看護や介護の質の向上」も多くなっています。

④将来について

◆ 将来の暮らし方の希望

～ 「現在の施設で生活」は約 4 割、「施設を退所したい」は 3 割あまり
「現在入所している施設で生活したい」が 40.9%、「施設を退所して家族と一緒に生活したい」が 22.6%、「施設を退所してグループホームなどで生活したい」が 7.5%、「施設を退所してひとり暮らしをしたい」が 3.7%となっています。

◆ 施設を退所したい理由

～ 「家族のそばにいたい」、「自由な生活がしたい」が多い
「家族のそばにいたいから」が 62.2%、「自由な生活がしたいから」が 22.3%となっています。

◆ 施設で暮らしたい理由 ～ 「施設にいたほうが安心」が最も多い

「施設にいたほうが安心できるから」が 78.5%と最も多くなっています。

◆ 地域生活のために必要なこと

～ 「地域の障害理解」、「経済的負担の軽減」、「医療体制の充実」が多い
「地域の人たちの障害に対する理解」が 61.2%、「経済的負担の軽減」が 51.9%、「医療体制の充実」が 40.0%となっています。

◆ 一般就労のために必要なこと

～ 「総合的な相談支援」、「障害特性に合った職業・雇用」が多い
「仕事探しから就労までの総合的な相談支援」が 51.8%、「障害の特性に合った職業・雇用の拡大」が 50.5%となっています。

⑤自由意見 ～ 「施設生活の充実」、「施設職員の確保・対応の改善」、

「外出のための支援」、「親亡き後や本人が高齢になったときの配慮」など
「施設について」の意見が 43.2%と最も多くなっています。意見の内容では、施設生活の充実に関する意見や、施設職員の確保と対応の改善に関する意見、外出のための支援に関する意見、親亡き後や本人が高齢になったときの配慮に関する意見などが多くなっています。

3 18歳未満の方と保護者の方を対象とした調査

①ご家族や介助者について

◆ 介助者が困っていること ～ 「緊急時の対応に不安」が最も多い

身体障害では「代わりの介助を頼めない」、「身体的な負担」も「緊急時の対応に不安がある」が 57.0%と最も多くなっています。身体障害のある方では、「代わりの介助を頼める人がいない」、「身体的な負担が大きい」も多くなっています。

②日常生活について

◆ 日常生活で困っていること ～ 「将来の生活に不安」が最も多い

知的障害では「身の回りのことが十分できない」、「療育・教育について困っている」も「将来の生活に不安を感じている」が 76.1%と最も多くなっています。知的障害のある方では、「自分では身の回りのことが十分できない」、「療育・教育について困っている」も多くなっています。

◆ 希望する相談制度 ～ 「専門性の高い相談」が最も多い

「専門性の高い職員による相談」が 62.6%と最も多くなっています。

③ 生活環境について

◆ 外出するとき困っていること ～ 「トイレの利用」が最も多い

知的障害では「周囲の目が気になる」が多い「トイレの利用」が 27.3%と最も多くなっています。知的障害のある方では、「周囲の目が気になる」が 24.2%と多くなっています。

◆ 災害時不安に思うこと ～ 「避難所の設備」、「避難所での介助」が多い

身体障害では「薬や医療的ケアの確保」が多い「避難所の設備が障害に対応しているか不安」が 49.0%、「避難所で必要な介助を受けられるか不安」が 43.1%となっています。身体障害のある方では、「薬や医療的なケアが確保できるか不安」も多くなっています。

④療育・保育について

◆ 療育・保育について困っていること

～ 「本人の成長に不安」、「情報が少ない」が多い
「本人の成長に不安がある」が 56.9%、「療育・保育に関する情報が少ない」が 46.8%となっています。

◆ 現在通っているところ（小学校入学前）

～ 「千葉市療育センター」、「保育所(園)」、「千葉市大宮学園」が多い
「千葉市療育センター」が35.4%、「保育所(園)」が32.6%、「千葉市大宮学園」が25.7%となっています。

◆ 小学校入学時の希望 ～ 身体障害では「特別支援学校」が多い

知的障害では「通常学級」、「特別支援学級」が多い
身体障害のある方では、「特別支援学校の小学部」が42.9%と最も多くなっています。知的障害のある方では、「小学校の通常学級」と「小学校の特別支援学級」がそれぞれ32.3%となっています。

⑤学校・教育について

◆ 現在通っているところ（小学校・小学部）

～ 身体障害では「特別支援学校」、知的障害では「特別支援学級」が多い
身体障害のある方では、「特別支援学校の小学部」、知的障害のある方では、「小学校の特別支援学級」が多くなっています。

◆ 現在通っているところ（中学校・中学部）

～ 「特別支援学校」が多い・知的障害では「特別支援学級」も
身体障害のある方、知的障害のある方ともに、「特別支援学校の中学部」が多くなっています。知的障害のある方では、次いで「中学校の特別支援学級」も多くなっています。

◆ 現在通っているところ（高等学校・高等部） ～ 「特別支援学校」が多い

身体障害のある方、知的障害のある方ともに、「特別支援学校の高等部」が多くなっています。

◆ 学校・教育について困っていること

～ 「学校終了後の進路に不安」、「通学の送り迎え」が多い
知的障害では「情報が少ない」、「今後の学校選択」も
「学校終了後の進路に不安がある」が77.9%、「通学の送り迎えが大変」が39.2%となっています。知的障害のある方では、「教育・療育に関する情報が少ない」、「今後の学校選択について迷っている」も多くなっています。

◆ 学校卒業後の進路希望 ～ 「障害福祉サービス事業所」が最も多い

知的障害では「企業等に就職」も
「障害福祉サービス事業所（通所施設など）に通いたい」が36.0%と最も多くなっています。知的障害のある方では、「企業等に就職したい」も多くなっています。

⑥将来について

◆ 将来の暮らし方の希望 ～ 「自宅で家族と暮らしたい」が最も多い

知的障害では「グループホーム」も

「自宅で家族と暮らしたい」が 55.2%と最も多くなっています。知的障害のある方では、「グループホームなどに入居したい」もやや多くなっています。

◆ 地域生活のために必要なこと

～ 「地域の障害理解」、「経済的負担の軽減」、「就労のための支援」が多い

「地域の人たちの障害に対する理解」が 80.5%、「経済的負担の軽減」が 63.9%、「就労のための支援」が 61.8%となっています。

⑦サービスの利用について

◆ 訪問系サービスの利用意向

～ 身体障害では「居宅介護」、知的障害では「行動援護」が多い

「行動援護」が 27.9%、「居宅介護（ホームヘルプ）」が 27.1%、「重度訪問介護」が 18.5%、「重度障害者等包括支援」が 17.9%となっています。身体障害のある方では、「居宅介護（ホームヘルプ）」、知的障害のある方では、「行動援護」が多くなっています。

◆ 日中活動系サービスの利用意向

～ 「自立訓練」、「就労移行支援」、「短期入所」が多い

「自立訓練（機能訓練・生活訓練）」が 45.4%、「就労移行支援」が 42.7%、「短期入所（ショートステイ）」が 40.8%、「就労継続支援（A 型・B 型）」が 37.4%、「児童デイサービス」が 37.4%となっています。

◆ 居住系サービスの利用意向 ～ 「グループホーム」が最も多い

身体障害では「施設入所支援」が多い

「共同生活援助（グループホーム）」が 31.7%、「施設入所支援」が 22.7%、「共同生活介護（ケアホーム）」が 19.1%となっています。身体障害のある方では、「施設入所支援」が多くなっています。

◆ 地域生活支援事業の利用意向

～ 「相談支援事業」、「日中一時支援事業」が多い

「相談支援事業」が 49.6%、「日中一時支援事業」が 47.9%、「生活支援事業」が 40.6%、「地域活動支援センター」が 38.5%となっています。

◆ 福祉タクシー利用券・自動車燃料費助成の利用目的

～ 「医療機関への通院」、「通勤・通学」が多い

「医療機関への通院」が 74.3%、「通勤・通学」が 67.5%となっています。

◆ サービスを利用する上で困っていること

～ 「サービスに関する情報が少ない」、「手続きが大変」が多い
「サービスに関する情報が少ない」が 59.0%、「サービス利用の手続きが大変」が 36.5%となっています。

⑧自由意見 ～ 「利用したいサービスが利用できない」、「療育の充実」、
「放課後・休日等の預かり」、「学校卒業後の進路」など
「福祉サービス」に関する意見が 54.4%と最も多くなっています。意見の内容では、利用したいサービスが利用できないという意見や、療育の充実に関する意見、放課後・休日等の預かりに関する意見、学校卒業後の進路に関する意見などがありました。

4 発達障害の方とご家族の方を対象とした調査

①日常生活について

◆ 日常生活で困っていること

～ 「将来の生活に不安」、「発達や心身の状態に不安」が多い
「将来の生活に不安を感じている」が 79.4%、「本人の発達や心身の状態に不安がある」が 67.6%となっています。

◆ 希望する相談制度 ～ 「専門性の高い相談」が最も多い

「専門性の高い職員による相談」が 67.6%と最も多くなっています。

◆ 災害時不安に思うこと

～ 「避難所の設備」、「薬や医療的なケアの確保」が多い
「避難所の設備が障害に対応しているか不安」が 44.1%、「薬や医療的なケアが確保できるか不安」が 29.4%となっています。

②療育について

◆ 療育について困っていること

～ 「友だちとの関係づくり」、「療育に関する情報が少ない」が多い
「友だちとの関係づくりがうまくできない」が 82.4%、「療育に関する情報が少ない」が 70.6%となっています。

③学校・教育について

◆ 学校・教育について困っていること

～ 「教職員の指導・支援」、「学校終了後の進路」、「友だちとの関係づくり」が多い
「教職員の指導・支援の仕方が心配」と「学校終了後の進路に不安がある」がそれぞれ 80.0%、「友だちとの関係づくりがうまくできない」が 76.0%となっています。

④将来について

◆ 将来の暮らし方の希望 ～ 「自宅で家族と暮らしたい」が最も多い

「自宅で家族と暮らしたい」が 35.3%、「自宅でひとり暮らしをしたい」が 11.8%、「グループホームなどに入居したい」が 8.8%となっています。

◆ 地域生活のために必要なこと

～ 「地域の障害理解」、「就労のための支援」、「経済的負担の軽減」が多い
「地域の人たちの障害に対する理解」が 79.4%、「就労のための支援」が 73.5%、「経済的負担の軽減」が 67.6%となっています。

◆ 一般就労のために必要なこと

～ 「ジョブコーチなど職場定着の支援」、「職場の障害理解促進」が多い
「ジョブコーチなど職場に定着するための支援」が 79.4%、「障害理解を促進するための職場への働きかけ」が 76.5%となっています。

⑤サービスの利用について

◆ 訪問系サービスの利用意向

～ 「行動援護」、「居宅介護（ホームヘルプ）」が多い
「行動援護」が 20.6%、「居宅介護（ホームヘルプ）」が 14.7%となっています。

◆ 日中活動系サービスの利用意向 ～ 「就労移行支援」が多い

「就労移行支援」が 73.5%、「自立訓練（機能訓練・生活訓練）」が 32.4%、「児童デイサービス」が 29.4%、「就労継続支援（A 型・B 型）」が 26.5%となっています。

◆ 居住系サービスの利用意向 ～ 「グループホーム」が多い

「共同生活援助（グループホーム）」が 26.5%、「共同生活介護（ケアホーム）」が 11.8%、「施設入所支援」が 8.8%となっています。

◆ 地域生活支援事業の利用意向

～ 「相談支援事業」、「発達障害者支援センター」が多い
「相談支援事業」と「発達障害者支援センター」がそれぞれ 79.4%となっています。

◆ サービスを利用する上で困っていること

～ 「サービスに関する情報が少ない」、「利用したいサービスが利用できない」が多い
「サービスに関する情報が少ない」が 50.0%、「利用したいサービスが利用できない」が 29.4%となっています。

⑥自由意見 ～ 「手帳のない発達障害者のサービス利用」、「療育の充実」、
「教職員の指導・支援の改善」など
「行政・制度」に関する意見が 68.0%と最も多くなっています。意見の内容では、手帳のない発達障害者のサービス利用に関する意見や、療育の充実に関する意見、教職員の指導・支援に関する意見などがありました。